

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18500546

研究課題名（和文） がん長期生存者とその家族の精神的健康

研究課題名（英文） Mental Health-related Quality of Life among Long-Term Cancer Survivors and their Family Members

研究代表者

佐伯 俊成（SAEKI TOSHINARI）

広島大学・病院・准教授

研究者番号：70284180

研究成果の概要：

小児がん経験者の両親の約 2 割は、患児が長期寛解していても強い外傷後ストレス症状（PTSS）を抱えていることが明らかになった。

母親にはとりわけ家族関係の調整や疾患背景の理解を促進するような支援が、父親には個人の心理的特性に応じて不安や抑うつを軽減するような支援が望ましいと考えられた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,600,000	0	1,600,000
2007 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	570,000	4,070,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・応用健康科学

キーワード：保健健康情報

## 1. 研究開始当初の背景

心に受けた非常に強い衝撃体験が、その後も強く記憶の中に残り、精神的に影響を受け続けることがあり、それによる精神的な変調をトラウマ（外傷）反応と呼ぶ。

トラウマを引き起こす体験の内容は様々であるが、近年小児がんを含めて重大な病気の診断を受け治療を進めてゆく経過中に受けた衝撃も、心的外傷後ストレス障害（PTSD）につながるトラウマ体験に値するものとして注目されている。

小児がんの治療成績は近年目覚しく向上し、全体の約 6 割が治癒を望める状況となっている。予後の改善に伴い、治癒した患者たちは様々な形で社会と接点を持つようになり、それによって彼らのニーズは多様化してきている。

心身ともに発達途上の小児が、「がん」と診断され、がんに伴う症状や過酷ながん治療を経験することは、それ自体がトラウマ体験でもあり、身体的にも精神的にも長期にわたる影響を残す可能性が高い。さらにその影響

は家族にも及んでいると考えられる。しかし、こうした PTSD 症状に関する医療サイドの理解と取り組みははなはだ乏しいといわざるを得ない。

Nir (1985) は、小児がんの治療を受けた患者がその心身を脅かすがん体験あるいはがん治療体験に基づいて示す反応を PTSD 症状として最初に報告した。その後、1980 年代から 90 年代前半の欧米における観察研究によって、小児がん患者は概して良好な心理的適応を示す一方で、明らかに困難を抱えている者も存在することが示された。しかしこれらの研究は、幅広い年齢の患者を対象とし、診断からかなり長期間が経過しており、種々の評価尺度の信頼性や妥当性も不十分であったため、PTSD 症状を的確に評価できていたとはいえない。

その後欧米では、PTSD 症状評価尺度の精度向上もあって、小児がん長期生存者における PTSD 症状に関する研究が散見されるようになった。

現在のところ、患者における PTSD 症状が一般人口よりも明らかに多いとの報告がある一方、対照比較研究では患者群と健常群で有意差がなかったとの報告もあり、明確なエビデンスは得られていない。

また小児がんの両親においては、健常群よりも有意に PTSD 症状を多く認めたとの報告もあるが結論は出ていない。

わが国では、小児がん患者とその家族の PTSD 症状に関する多数例研究は存在せず、本研究はその嚆矢となるものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、小児がん患者を対象として、その背景にある心理状態（不安・抑うつなど）や家族機能など種々の心理社会的因子ならびに身体的・医学的因子を詳細に調査し、それらが患者や両親の PTSD 症状にどのように関連しているかを明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

小児がんの治療を行っている 3 施設（広島大学病院、広島赤十字・原爆病院、久留米大学病院）において、小児がん経験者の両親を対象として簡易面接と質問紙による調査を行った。参加者全員から文書同意を得た。

評価項目は、医学的因子、人口統計学的因子のほか、自記式尺度 Impact of Event Scale-Revised (IES-R) による外傷後ストレス症状の程度、不安・抑うつ、家族機能認知などを設定した。

## 4. 研究成果

調査対象は小児がん経験者の母親 87 名、父親 72 名。IES-R 平均スコアは母親 15.0 ± 12.4 点、父親 16.0 ± 14.3 点であった。臨床的意義のある cut off 値 25 点を越えたケースは母親 20.7%、父親 22.2%で、Cut off 値によって両親をそれぞれ 2 群に分類した。Cut off 以上の群の関連要因として、母親では高い不安、高い抑うつ、発病後 10 年以上経過、児が 6 才以降に発症したこと、家族の低い役割分担機能・低い情緒的反応・低い情緒的関与・低い全般的機能が抽出された。父親では高い不安、高い抑うつが関連要因として抽出されるにとどまった。

本研究の結果から、

- 1) 小児がん経験者の両親の約 2 割は、患児が長期寛解していても強い外傷後ストレス症状 (PTSS) を抱えていることが明らかになった。
- 2) 母親にはとりわけ家族関係の調整や疾患背景の理解を促進するような支援が、父親には個人の心理的特性に応じて不安や抑うつを軽減するような支援が望ましいと考えられた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

1. 佐伯俊成, 他: 身体科からみたうつ病中核群—身体疾患とうつの関連. 精神科治療学 24: 97-101, 2009, 査読有り
2. 佐伯俊成: 精神医療における電子メールコミュニケーションの実際. 精神科治療学 23: 549-552, 2008, 査読無し
3. 佐伯俊成: IT (information technology) を介した精神医療における倫理. 精神科治療学 23: 587-589, 2008, 査読無し
4. 佐伯俊成, 他: せん妄の診断—一般診療医が行うべき治療とは. がん患者と対症療法 19: 122-128, 2008, 査読無し
5. 佐伯俊成, 他: 癌患者の家族に対する精神的ケア. コンセンサス癌治療 7: 20-23, 2008, 査読無し
6. 尾形明子, 佐伯俊成: 小児がん患者と家族に対する心理的ケア. 総合病院精神医学 20: 26-32, 2008, 査読有り
7. Mantani T, Saeki T, et al: Factors related to anxiety and depression in women with breast cancer and their husbands: role of alexithymia and family functioning. Support Care Cancer 15, 859-868, 2007, 査読有り
8. Ozono S, Saeki T, et al: Factors

related to post-traumatic stress in adolescent survivors of childhood cancer and their parents. Support Care Cancer 15, 309-317, 2007, 査読有り

9. 佐伯俊成, 他: がん緩和ケアにおける非定型抗精神病薬の役割. 総合病院精神医学 19: 311-316, 2007, 査読無し
10. 小早川誠, 佐伯俊成, 他: 抗精神病薬の基礎知識と使い方. 緩和ケアのための医薬品集(志摩泰夫編), 16: pp110-124, 青海社, 東京, 2006, 査読無し
11. 佐伯俊成, 他: 希死念慮のあるがん患者への対応. 緩和ケア 16: 324-328, 2006, 査読無し
12. 佐伯俊成, 他: せん妄. 緩和医療学 7: 301-305, 2006, 査読無し
13. 佐伯俊成: 新規抗精神病薬によるせん妄治療. 緩和ケア 16: 132-133, 2006, 査読無し

[学会発表] (計 21 件)

1. Saeki T, et al: Family functioning as a predictor of psychological morbidity in breast cancer survivors: a 3-year prospective study. 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, Tokyo, Japan, November 2, 2008
2. 佐伯俊成: 緩和医療に欠かせないコミュニケーション技術—上手な聴き方の五原則—. 第2回日本緩和医療薬学会年会ワークショップ「薬剤師に今, 必要なこと—より良い Patient Coordinator をめざして—», 横浜, 2008年10月19日
3. 高石美樹, 佐伯俊成, 他: 早期乳がん生存者の精神的健康と家族機能の関連—3年追跡研究—. 第21回日本サイコオンコロジー学会総会, 東京, 2008年10月10日
4. 佐伯俊成: がん疼痛緩和における向精神薬処方最適化—最近の抗うつ薬, 抗精神病薬を使いこなすには—. 日本ペインクリニック学会第42回大会ランチョンセミナー, 福岡, 2008年7月19日
5. 高石美樹, 佐伯俊成, 他: がん患者の家族への精神的ケアに対する大きなニーズ—医療ユーザー1000人アンケートの結果から—. 第13回日本緩和医療学会総会, 静岡, 2008年7月5日
6. 佐伯俊成, 他: がん緩和医療における精神的ケアの担い手としての臨床心理士に対するニーズ—医療従事者2000人アンケートの結果から—. 第13回日本緩和医療学会総会, 静岡, 2008年7月5日
7. 佐伯俊成: 緩和ケアチームにおける精神科医のミッション—身体科スタッフが精神科医に望むものとは—. 第20回日本サイコオンコロジー学会イブニングセミナー, 札幌, 2007年11月29日
8. 佐伯俊成: 医療スタッフなら知っておきたい精神的ケアの基本技術—コミュニケーションと薬物療法のポイント—. 第45回日本癌治療学会ランチョンセミナー, 京都, 2007年10月24日
9. 佐伯俊成: 薬剤師が知っておくべき精神的ケアのABC—コミュニケーションと向精神薬処方あり方—. 第1回日本緩和医療薬学会第1回年会ランチョンセミナー, 東京, 2007年10月20日
10. Saeki T, et al: Relationship between Family Functioning and Psychological Distress in Breast Cancer Survivors: a 3-year Prospective Study. 8th World Psychiatric Association Regional Conference, Shanghai, China, September 21, 2007
11. 佐伯俊成: IT (Information Technology) を採用した精神医療の可能性. 第26回日本社会精神医学会シンポジウム VII 「精神科医療における IT の活用と地域連携», 横浜, 2007年3月23日
12. 佐伯俊成: がん疼痛治療に欠かせない精神的ケア—安易なプラセボ鎮痛をなくすために—. 日本臨床麻酔学会第26回大会(旭川市)シンポジウム「がん疼痛治療を支える», 2006年10月26日
13. Ozono S, Saeki T, et al: Family typology and psychological distress among Japanese childhood cancer survivors and their parents. The 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice, Italy, October 21, 2006
14. Yamashita M, Saeki T, et al: Family Functioning as a Predictor of Depression and Anxiety in Breast Cancer Survivors: a 3-year Prospective Study. The 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice, Italy, October 21, 2006
15. 佐伯俊成: 鎮痛補助薬としての向精神薬の処方テクニック. 日本ペインクリニック学会第40回大会(神戸市)ワークショップ2「慢性疼痛に対する内服薬の選択と処方のテクニック», 2006年7

月 15 日

16. 佐伯俊成: 進行がん患者の家族への対応. 第 39 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会シンポジウム 3「整形外科医にとっての緩和ケア」, 札幌, 2006 年 7 月 7 日
17. 佐伯俊成: 緩和医療スタッフが知っておきたい向精神薬の副作用. 第 11 回日本緩和医療学会総会, シンポジウム 2「緩和医療に用いる薬の副作用」, 神戸, 2006 年 6 月 24 日
18. 山下美樹, 佐伯俊成, 他: 総合診療科を窓口としたコンサルテーション・リエゾン精神医療の試み. 第 47 回日本心身医学会総会, 東京, 2006 年 5 月 31 日
19. 佐伯俊成, 他: 乳がん患者の家族における不安・抑うつと家族機能の関連. 第 47 回日本心身医学会総会, 東京, 2006 年 5 月 31 日
20. 山下美樹, 佐伯俊成, 他: 乳がん患者の家族における心理的ストレスと家族機能の関連. 第 102 回日本精神神経学会総会, 福岡, 2006 年 5 月 13 日
21. 佐伯俊成, 他: Family Relationships Index (FRI) によるがん家族のタイプ分類—家族機能と不安・抑うつとの関連—. 第 102 回日本精神神経学会総会, 福岡, 2006 年 5 月 13 日

〔図書〕 (計 5 件)

1. 佐伯俊成: 軽症うつ病. 気分障害 (上島国利ほか編), pp. 534-538, 医学書院, 東京, 2008
2. 佐伯俊成, 他: 研修医のための精神科講座 (せん妄・不定愁訴・うつ病). DVD シリーズ「カンファレンス方式による精神疾患治療の実践講座」. 30 分×3 話, ケアネット, 東京, 2007
3. 佐伯俊成: 死にたいと訴える患者さんへ, どう対応すれば良いでしょうか? 一般病棟でできる緩和ケア Q&A (堀 夏樹, 小澤桂子編). pp160-161, 総合医学社, 東京, 2006
4. 佐伯俊成: 不眠の患者さんへの薬物療法や援助方法を教えてください. 一般病棟でできる緩和ケア Q&A (堀 夏樹, 小澤桂子編). pp164-165, 総合医学社, 東京, 2006
5. 佐伯俊成: ターミナルケアで家族にはどのように対応すればいいの? 全科に必要な精神的ケア Q&A (上島国利, 平島奈津子編). pp154-155, 総合医学社, 東京, 2006

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐伯 俊成 (SAEKI TOSHINARI)  
広島大学・病院・准教授  
研究者番号: 70284180

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者